

ひまひま データ

オフライン

数字で遊ぶ
ボートレース

接戦でゴールするほど高配当に! タイム差をひも解くと新たな発見がありました

表1-1 ●06年以降、決まり手別
1着と2着のタイム差

決まり手	決まり手比	タイム差(秒)
まくり	18%	1.55
まくり差し	13%	1.47
逃げ	45%	1.43
差し	15%	1.43
恵まれ	0%	1.42
抜き	9%	1.26
	100%	1.44

表1-2 ●96~01年、決まり手別
1着と2着のタイム差

決まり手	決まり手比	タイム差(秒)
まくり	32%	1.79
まくり差し	11%	1.67
逃げ	24%	1.63
差し	19%	1.59
恵まれ	0%	1.45
抜き	15%	1.38
	100%	1.64

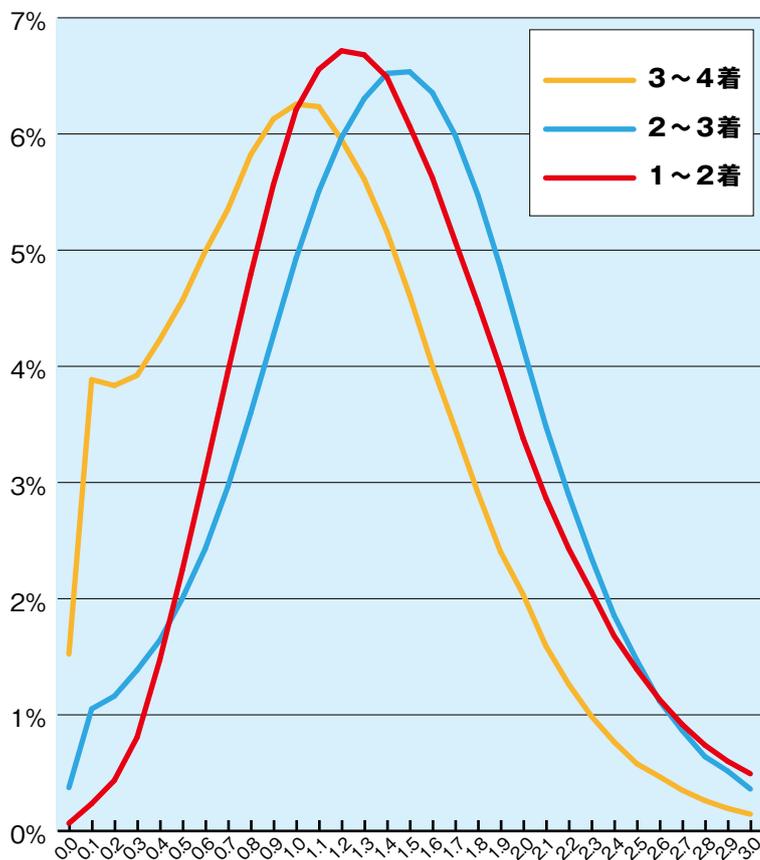
前回は1着時の2着とのタイム差を考察してみました。96年当時は1.65秒でしたが少しずつ差が縮まり、06年以降はほぼ一定で平均1.44秒差ということがわかりました。

展示タイムから判断して、概ね150mを6・8秒で走ると仮定すると、1.44秒は32mくらいの距離でしょうか。

今回はそこから発展し、0.1秒差のような僅差のレースは何%? とか決まり手別では? など、まだまだ気になることがあります。ということでもう少し調べさせていただきます。

集計は特に断りのない限り06年以降、3周&6艇ゴールのレースのみとします。

グラフ1 ●06年以降、着順間別のタイム差分布



●決まり手別の1着2着タイム差

決まり手によってタイム差に違いはあるのでしょうか。私は「逃げ」が一番タイム差が広がるのではないかと思います。今はイン逃げが多い時代でもありますし、全選手がモンキーターンをするような時代になってから20年以上は経っています。インから逃げたら後続はほとんど遅れて...

結果は「まくり」が1位で1秒55でした(表1-1)。スピードを持って他艇を引き波に入れながらトップに立つ方が差が広がるということなのでしょう。

2位は「まくり差し」で1秒47。ただ引き波を1つ以上超えているは

ずで、その点でまくりより差が広がらないのかもしれない。

3位は「逃げ」で、平均とほぼ同じ1秒43でした。私はまだボートレースをよく理解できていなかったようです。

イン逃げでタイム差が広がるということではないのですね。そして「差し」もほぼ同程度。最下位はもちろん「抜き」でした。競り合うことで差は広がらないようです。

まくりが平均より早い分を「抜き」の1秒26が吸収して、平均値は1秒44になっているようです。

そうすると、平均が1秒65だった96年頃はずっとまくり勝ちが多かったはず。となれば、まくりが多かつ

グラフ2 ●06年以降、1着～2着タイム差別の平均配当



たことが原因で1着と2着のタイム差が大きかったのではないでしょう。集計期間を平均値が1秒64の96年～01年(6年間)として調べてみました(表1-2)。

結果、私の予想は誤りでした。「まくり」の比率は32%(06年以降は18%)ですが、「まくり・まくり差し・逃げ」すべてが06年と比較して0.2秒以上も差がありました(苦笑)。

その頃の1着と2着のタイム差が大きかった理由は今回もわかりませんでした。

●タイム差の分布

タイム差の分布を探ってみましょう(グラフ1)。タイムは0.1秒単位で発表されています。そのタイムを引算した結果の値が、(1着～2着の)タイム差0.6秒は全体

の3.1%、タイム差1.2秒というのは6.7%という意味のグラフになります。

1～2着のタイム差が最も多いのは1.2秒差。0.5から2.0秒差の間におよそ80%が入ります。0.0から0.4秒差には3%。1艇身というとおよそコマ13秒くらいですが、1着と2着の着差3艇身以内のレースは節間で1～2回といったところでしょうか。場内から「おおっ」と歓声上がる状況です。

一応、2～3着や3～4着のタイム差もグラフに載せてみました。気になるのは0.1秒差のところ。ポートの場合、引き波に入ると失速することもあり、真後ろに付いてゴール前で追い越すということはず、1艇身という範囲に並ぶのが珍しいことなのかもしれません。

タイム差0.0秒(同タイム)よりも0.1秒差の方がかなり多くなっているようです。そして2～3着よりも3～4着の接戦の方が明らかに多いです。

1着や2着よりも3着が最後まで決まらないレースをよく見かけることが、このグラフからもわかるのではないのでしょうか。

●1着と2着のタイム差別、3連単

前回、上瀧和則選手が1着の時、2着とのタイム差が0.874秒しかないことがわかりました。もしかすると1着と2着のタイム差によって3連単の平均配当が変わったりするのでしょうか? 調べてみました(グラフ2)。

なんと、1着と2着が接戦であれ

ばあるほど平均配当が高いようです。同タイムの場合はおよそ1万円。そこから0.1秒ずつ差が広がるごとにおよそ500円ずつ下がり、0.5秒差以降はほぼ7500円前後で落ち着きます。

つまり0.4秒以内の接戦の時だけ高配当になるようです。3周2Mなど、直前まで走っていた先頭艇の引き波が残っていて2着・3着が混戦になると配当が高めになるのでしょうか。

0.5秒差以上では配当面でそれほどの影響はなさそうです(0.1秒差ごとに23円下がる程度)。

1着・2着の差が僅差という予想ができたなら、高配当を掴めるかもしれない。タイム差が予想できなかったとしても、そもそも誰の1着・2着というのがわからないと舟券は買えないので、予想には全く使えない話ですが(笑)。さらにタイム差0.4秒差以内は、全体の3%しか発生しません。

●2着時の1着とのタイム差ランキング

前回は1着時の2着とのタイム差ランキングを作成しました。1位は秋山直之選手で2.37秒。逆にタイム差が小さい選手の5位には0.87秒で上瀧和則選手(引退)がいることなど、選手の個性っぽいものが出ていることがわかりました。

では「2着の時1着とのタイム差」を選手別に集計してみるとどうなのでしょう。2着回数100回未満の選手は除外しました(表2)。「1着時の2着とのタイム差」の時



現役では最も先頭を追い詰める松井洪弥



表2-2●06年以降、2着時の1着とのタイム差平均が大きいランキング
(3周かつ6艇ゴールレースのみ)

順位	登番	選手名	対象1着数	2着とのタイム差
現役1位	4385	鈴木祐美子	203	2.172
現役2位	4161	黒柳 浩孝	543	2.055
現役3位	4924	中北 涼	122	2.054
現役4位	4792	杉村 賢也	154	1.968
現役5位	4346	前田健太郎	472	1.964

表2-1●06年以降、2着時の1着とのタイム差平均ランキング
(3周かつ6艇ゴールレースのみ)

順位	登番	選手名	対象2着数	1着とのタイム差
1位	2992	今村 豊	619	0.952
2位	4824	松井 洪弥	386	0.967
3位	3295	濱村 芳宏	741	0.996
4位	4259	真庭 明志	927	0.996
5位	3898	平田 忠則	1001	1.016
6位	4604	岩瀬 裕亮	730	1.024
7位	4295	小坂 尚哉	933	1.041
8位	3779	原田 幸哉	748	1.043
9位	5015	高橋 竜矢	258	1.048
10位	3811	石田 章央	1027	1.049
11位	4524	深谷 知博	726	1.050
12位	3319	山崎 義明	991	1.055
13位	3931	黒崎 竜也	796	1.064
14位	4718	北川 太一	406	1.065
15位	4230	濱崎 直矢	799	1.066
16位	4311	岡村 仁	872	1.072
17位	4397	西村 拓也	981	1.076
18位	3300	川崎 智幸	1007	1.078
19位	4448	青木 玄太	799	1.078
20位	4973	栗原 直也	118	1.079

表3●96年以降、同タイム数・同着数

着差	総レース数	割合 →	同タイム	割合 →	同着
1~2着	1521809	0.07%	1132	2.21%	25
2~3着	1521082	0.45%	6852	2.57%	176
3~4着	1317376	1.42%	18738	2.55%	477
4~5着	501901	1.64%	8247	2.74%	226
5~6着	470596	1.21%	5712	2.66%	152

には女子選手がとて多くいたのですが、こちらは0人。前回のリストとはほとんど違う選手。さらに上位陣はほぼA1級選手！

どちらのリストにも上位で入っていたのは岩瀬裕亮選手だけ。岩瀬選手は1着の時は2番手を引き離し、2着のときは先頭艇を猛烈に追っているということなのでしょう。

またそれをどちらも上位で実現している選手は非常に少ないようです。

さて1位は、今村豊選手(引退)でした。こんなところに今村選手の1位の記録が残っているとは思いませんでした。

2着のときはずっと先頭艇を追っていたというのでしょうか。2着回数619回で1着との差が平均で1・0秒切っているとは。そして3位にも引退された濱村芳宏選手。濱村選手も1秒を切っています。そういう見方で今村選手や濱村選手のレースをもっとよく見ておくべきでした。

現役では松井洪弥選手が1位で0・967秒。今村豊選手に迫る数字です。松井選手はGII以上出場24節で準優3回、優出なし。この記録が直接大きな成績に繋がってはいませんが、松井選手が2着の時、どんなレースをしているのか、もの凄く気になってきました。

2位の黒柳浩孝選手はA級で、1月からA1級に復帰予定です。それだけの成績が出ているということは何らかの戦術なのかもしれません。2番手を走っている時は先頭を追うより、3番手以下を封じ込める何ら

かの戦法など。選手の個性がこれらに出ているのかもしれませんが。

●同着が減っている？

もともとこの集計は同タイムのうち何%が同着になるのかな？というところがスタートでした。少し同着も見てみます。グラフ1でいうところの0・0秒が「同タイム」です。そのうちの何%かが「同着」となります(表3)。

およそ152万レースの0・07%が同タイム。同タイムでも同着というわけではありません。その中の21%が1着同着で、96年以降で発生したのはわずか25件です。

そんな感じで2着~5着同着まで調べています。2連単の時代は、3着までのタイムしか発表されないことが普通でした。

今は3連単の時代ですから4着までタイムが発表されています。また6着まで発表される場やグレードレースもあります。

全体、同タイムのうち2・6%が「同着」と判定されているようです。24年は同着が激減状態なのです。ここ10年でも1着・2着・3着の同着は合わせて年間20件前後は出ていましたが、24年の同着は1着が1件、2着が0件、3着が8件だけ(12月18日時点)。

10年に1着と2着同着がともに0件ということがありましたが、それでも3着同着は23件ありました。もしかすると、スリット写真の精度がさらに上がったのでしょうか。